



(医療・福祉の充実－N－3)

きのくに医療連携システム「青洲リンク」
(和歌山県立医科大学)

【概要】

きのくに医療連携システム「青洲リンク」は和歌山県の医療情報連携基盤として平常時と災害時の2つの機能を和歌山県内に提供しています。県内各病院の電子カルテから患者の診療情報を標準フォーマットで出力・保管し、平常時には参加機関間で共有することで医療連携をサポートします。また、標準フォーマットで出力されたデータを県外の安全な場所に保管し、災害時には医療サービスの継続と災害時医療の支援を行う安全で安心な医療の提供をサポートする医療情報連携基盤です。

【コラム】

① サービス・事業の経緯や背景

和歌山県では平成24年度、和歌山県下全域での医療情報連携および災害の保全基盤として、きのくに医療連携システム「青洲リンク」を構築しました。構築当時は8病院と5診療所で開始、その後参加医療機関は徐々に増えております。

② サービス・事業内容の詳細

平常時には、他の医療機関での受診状況、投薬・検査等の診療情報が把握できることで、紹介・逆紹介の連携がスムーズに行えます。救急搬送の場合でも、アレルギー情報・投薬情報等を事前に確認できることで、迅速かつ適切な治療に役立ちます。

また、診療情報を共有するだけでなく、診療メモ機能で患者さんの治療経過等が登録できることで、医療機関同士のより円滑なコミュニケーションが可能になります。

災害時用としては保全された医療機関の必要最低限の診療情報（SS-MIX 2形式）を参照し、医療の継続・医療の支援に役立てます。

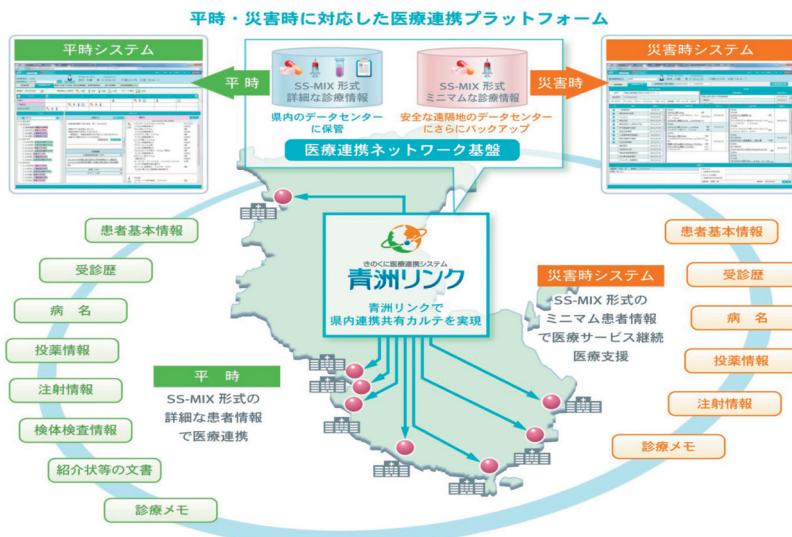
③ サービスイメージやシステム構成（通信ネットワークを含む）

システム構成としては参加病院の電子カルテ（マルチベンダ）からSS-MIX 2標準化ストレージを作成、また各病院のPACSからは医用画像（DICOM形式）を拡張ストレージに作成し、クラウド型での医療情報連携を運用しています。医療画像の連携も実装しておりDICOM画像の連携も用意しております。

また、地方部においては小規模医療機関のデータを連携させることが重要と考え、診療所ではレセプト電算データよりSS-MIX 2に近い形でデータを作成し連携、さらに和歌山県薬剤師会と共に調剤薬局の調剤データの連携、および民間検査会社に協力を依頼し、検査データの連携機能を開発しました。

各病院とデータセンター間は閉域のIPネットワーク上で1対1の拠点間接続し、セキュアに医療情報（SS-MIX 2）を自動送信します。また各医療機関での参照においてはインターネット（厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠したIPsec+IKE）を利用します。

以下、サービスイメージの図です。



④ 実施運営体制

運用主体：和歌山県立医科大学

実施機関：県内地域中核病院、医科・歯科診療所、薬局、検査センター

⑤ 導入にあたって工夫した点など

継続運用に向け、機器やシステムの導入・更新時に金額負担が発生しないクラウドサービスとして提供できる仕組みとして構築しました。またシステムの開発においてもベンダーフリーとなるようオープンソースを活用したシステム設計としました。

⑥ サービス・事業の反応（利用件数や利用者数、利用者からの反応など）

現在（平成27年10月）バックアップ件数は140万件、同意者数は200人

⑦ 効果と今後の展開

今後は医療機関間連携のみならず、訪問看護や在宅介護分野の連携へと拡大し、和歌山県の地域包括ケアの情報連携基盤となりえるよう展開を進めます。また、東南海・南海地震に備え、さらなる災害時医療支援データの充実、私立中小規模病院の参加メリットの明確化、また郡市医師会が独自に構築運用している二次医療圏単位での既存の地域医療連携システムとの連携を進め、和歌山県内に広く展開していきます。

⑧ 制作費

構築費：136,500千円（全額補助金）

維持費：1,104千円／月（利用病院負担・平成27年度実績）

〔問い合わせ先〕

- ・団体 和歌山県立医科大学
- ・担当部署名 和歌山県立医科大学附属病院 医療情報部 青洲リンク事務局
- ・電話番号／FAX番号：073-441-0858
- ・e-mail：info@seishu-link.jp
- ・WEBサイト：http://www.seishu-link.jp/